

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 当院における早産・低出生体重児に発症した鼠径ヘルニアの手術時期に関する検討
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部附属板橋病院 小児外科 （研究責任者）渡邊揚介
＜研究期間＞ 承認日 ～ 令和9（西暦2027）年3月31日
＜対象となる方＞ 西暦2014年1月から2025年1月までの期間に鼠径ヘルニアと診断し当院小児外科で手術を行った、早産・低出生体重児の方
＜研究の目的＞ 鼠径ヘルニアは脱出臓器が嵌頓（自然に戻らなくなり血流障害を起こすこと）するリスクがあるため、診断した際には比較的早期に手術が必要な病気です。早産・低出生体重児では正期産児に比べ鼠径ヘルニアの発症率が高くなるとされていますが、早産・低出生体重に伴う様々な病態のため、早期に手術を行うことで合併症のリスクを高めてしまう可能性があり、適切なタイミングで手術を行う事が重要です。 この研究は、早産・低出生体重児に発症した鼠径ヘルニアの患者さんについて、生まれてからの状態や診断から手術までの期間と術後経過を比較することで、より安全に手術を受けられる適切な時期や条件を検討することを目的としています。
＜研究の方法＞ 対象期間に鼠径ヘルニアと診断し当科で手術を行った、早産・低出生体重児の方を対象とします。これらの患者さんについて、診療録（カルテ）から周産期の経過や診断時の日齢および手術時点の日齢や身体所見、術後経過を調査します。調査した内容を統計学的に分析し、適切な手術時期を検討します。
＜研究に用いる試料・情報の項目＞ ●周産期の経過：出生週数・出生体重、新生児期の使用薬剤、周産期合併症の有無— など ●診断から手術までの経過：診断時日齢（修正週数）、患側、経過中の嵌頓の有無— など ●周術期の経過：手術時日齢（修正週数）、手術時体重、手術・麻酔時間、術後合併症の有無— など
＜お問い合わせ窓口＞ 日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町30番1号） 小児外科 氏名：渡邊 揚介 電話：03-9728111 内線：（医局）2452 （PHS）8166

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方